

令和 2 年(2020)1 月

『米作りで一番の大仕事「稲刈り！」』

昨年 10 月最後の週末は、前夜の大雨により田んぼは沼のような状態でした。ぬかるみに足を取られながらも、根気よく鎌で一株ずつ刈っていきます。刈った稲を束ね、稲束をおだ掛けするという一連の作業を、土日の 2 日間、総勢 22 人で行いました。

おだ掛けにズラリと並んだ稲の束を見ると、台風やイノシシに負けずに収穫まで辿り着けた達成感が沸き上がります。

1 週間天日干しした後、11 月 2 日に脱穀しました。ここまで終われば一安心！
おいしいお米をいただいて、1 年を締め括りました

<行事予定>

2 月 15 日(土) 午前 10 時から 早春の生き物観察&焼き芋

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook 「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和 2 年(2020)2 月 『田んぼの合唱団』

松子地区の里山では、毎年 2 月頃になると、アカガエルたちが一斉に土の中から這い出して、水が残った田んぼで大合唱を始めます。そして田んぼの中に、いくつもの卵塊が見られるようになるのです。

この時期には、貴重な生物の一つである、トウキョウサンショウウオの産卵もあります。何もなさそうな冬枯れの中でも、遊歩道の脇や山裾をよく見ると、草花も地面に張りつくように葉を広げ始めていますし、木々の新芽もずいぶん膨らみ始めています。

足元や木々の枝、水の中をゆっくり見ながら里山の春の気配を感じて散策するのが楽しみな季節です。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook 「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



▲アカガエルの卵塊

令和 2 年(2020)3 月 『今が見ごろ ～ヒカリモ～』

冬景色が広がる里山ですが、暖冬の影響でアカガエルの産卵が 2 週間ほど早く始まり、田んぼには多くの卵塊が産み落とされています。

また、昨年 4 月に確認したヒカリモが今年は 1 月に発生して驚かされています。3 ヶ月も早く水面に浮遊しています。暗い穴の中で光を反射し、鮮やかな黄金色に輝いています。

実際は微生物で水質等に影響されやすく、生息場所も限定的な希少生物と言えるでしょう。

最初に発見された富津市竹岡のヒカリモ発生地は、国の天然記念物に指定されています。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！

令和2年(2020)4月 『松子の自然～チョウとガ編～』

昨年に引き続き、一宮町東部地域保全会によるガイドブック「一宮町松子の自然 ～チョウとガ編～」ができました。(編集:一宮ネイチャークラブ)

里山に生息するチョウなどの減少が全国で報告される中、このガイドブックが松子の生き物を知るきっかけとなり、一宮の里山保全に役立つことを願って作成しました。ご活用ください。ご希望の方は吉田まで。

<一宮ネイチャークラブ年間予定>

4月 田ごさえ 5月 田植え 6月 ホタル観察 7月 水生生物観察
10月 稲刈・脱穀 12月 しめ飾り作り
2月 早春の森の生き物観察&焼芋

<どうぞご参加ください>

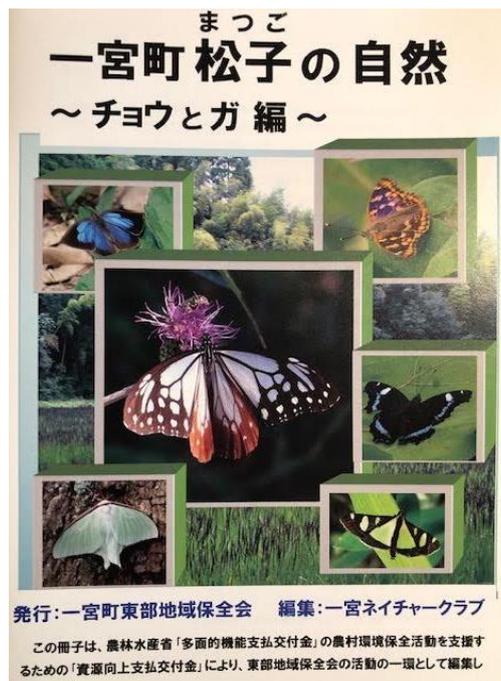
田植え 5月3日(祝・日) 10時～

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中!



令和 2 年(2020)5 月『トウキョウサンショウウオの産卵』

例年 1 月末から始まるトウキョウサンショウウオの産卵ですが、今年は 3 月初めにも確認されました。

国では絶滅危惧種、千葉県でも最重要保護生物に指定されている両生類です。メスは、三日月形の卵のう（卵が多数入った袋）を一對生みます。

近年は、外来種のアライグマが、産卵のために水辺に来た成体を食べてしまうことが報告されています。今年は、一宮でも食害を受けた成体が見つかりました。来年も再び産卵に戻って来るよう見守って行きたいと思います。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和2年(2020)6月 『田植えをしました』

5月の連休、松子の田んぼにはシュレーゲルアオガエルが白い卵塊を産みつける季節になりました。カエルたちの声もにぎやかです。

新型コロナウイルスのため「三密」にならないよう間隔を空けて、会員のみなさんが、田植えをしました。集合時間も決めず、家族ごとに田植えを開始するため、田植えの方法は掲示板で説明。小さな子どもがいる家族は、家族ごとにミニ田んぼを作って、田植えをしました。

これからも、子どもたちが、イネの生長を見にきてくれることを期待します。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和2年(2020)7月 『今年もたくさんのホタルが』

今年のホタル観察会はコロナ禍で中止となりました。

それにも関わらず大勢の方が訪れ、二百匹近くもの乱舞に「いっせいに点滅して感激！」「わーすごい！」の声。みんな、初夏の風物を楽しんでいました。

松子地区は、一宮でも数少ないゲンジボタルの生息地です。用水路には幼虫のえさのカワニナも生息し、絶滅危惧種ゲンジボタルの小さな命を支えています。

一宮町の財産として多くの皆さまと共に大切にしたい環境です。ゲンジボタルは6月中旬までですが、7月までヘイケボタルもいくらか見ることができます。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和 2 年(2020)8 月 『松子川と田んぼの生き物の観察』

7 月 12 日、松子川で水生生物の観察を行いました。梅雨の合間の夏空の下、17 名の親子が松子に遊びに来ました。子どもたちは、松子川や田んぼに入って、メダカ、ドジョウ、ヨシノボリ、マツモムシなどをつかまえ、熱心に観察していました。観察した後は、そっと川に返してあげました。

今年、松子の田んぼでは昨年よりヘイケボタルが増えて、7 月まで楽しめました。来年も観察できるよう、ホタルが増える環境づくりをしたいと考えています。

松子川から憩いの森周辺では、散歩する方が増えています。田んぼでのんびり過ごしているとカワセミとの出会いもあります。是ぜひ訪ねてみてください。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook 「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和2年(2020)9月 『サンコウチョウ』

毎年、夏になると軍荼利山から洞庭湖、松子周辺の森の中で、渡り鳥であるサンコウチョウの声が聞かれます。「ツキ、ヒー、ホシ、ホイホイホイ」という鳴き声が、月、日、星と聞こえるため、三光鳥という名がつけられました。

今年は5月末から7月の早朝や夕方、盛んに鳴き交わす声が聞かれました。越冬地であるベトナムの森では、ベトナム戦争で枯葉剤などが散布され、日本に渡ってくるサンコウチョウが減少しましたが、ようやく数を取り戻してきました。とはいえ、千葉県レッドデータブックでは、最重要保護生物となっています。撮影のため、営巣を妨げたりしないよう、見守って行きたいと思います。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和2年(2020)10月 『里山から消えた生き物』

松子は貴重種の宝庫、保護活動も活発です。それでも昔いたモツゴ(クチボソ)やウナギの稚魚(メソ)はすっかり姿を消してしまいました。トノサマガエルと呼ばれていた「トウキョウダルマガエル」もその一つです。環境悪化で、松子に限らず町内でも滅多に姿を見ません。今は環境省準絶滅危惧種に指定され、将来、絶滅の危険が高いカエルです。

最近、近隣の田んぼでこのカエルを見つけました。細々と生きていた！驚きと懐かしさが混在した複雑な心境でした。大切にしていきたいものです。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。
会員募集中！



令和2年(2020)11月 『秋の訪れ』

9月半ばを過ぎて暑さが和らぐと、ようやく雑草の成長も収まってきました。遊歩道や田んぼ周りの草取りも一段落かと思いきや、イノシシたちがあちらこちらで暴れ回るようになりました。

稲穂を垂れ始めた緑米の田んぼも荒らし始めたので、大急ぎで電柵を設置。古代米の緑米は超晩生なので、稲刈りは10月末です。

松子では、ヨメナなどの野菊やミズヒキ、ミゾソバ、ヒヨドリバナなど、野山を彩る草花が秋の気配を伝えています。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 070-4022-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和2年(2020)12月 『稲刈り、おだかけ、そして脱穀』

松子の田んぼでは、10月後半から11月初旬にかけて緑米（古代米）の収穫作業が行われます。今年は台風襲来こそなかったものの、長雨、日照り、イノシシ被害など、農作物にとって厳しい日々が続きました。

10月31日秋晴れの中、緑米の稲刈り開始。まだ水の残る田んぼに入り、泥んこになりながら一株一株手刈りしていきます。最後の一株を刈り取ると、クタクタになった皆の顔が最高の笑顔に。

松子の田んぼは機械が使えないため、昔ながらの手刈りとおだかけをしています。昔は脱穀後の稲藁を縄やむしろ、正月飾りなど様々に利用していたようですが、今は必要とされなくなりました。それでも当会では毎年12月に、皆でしめ飾りづくりをしています。

田んぼにおだかけがある風景を残してゆきたいものです。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 070-4022-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！

